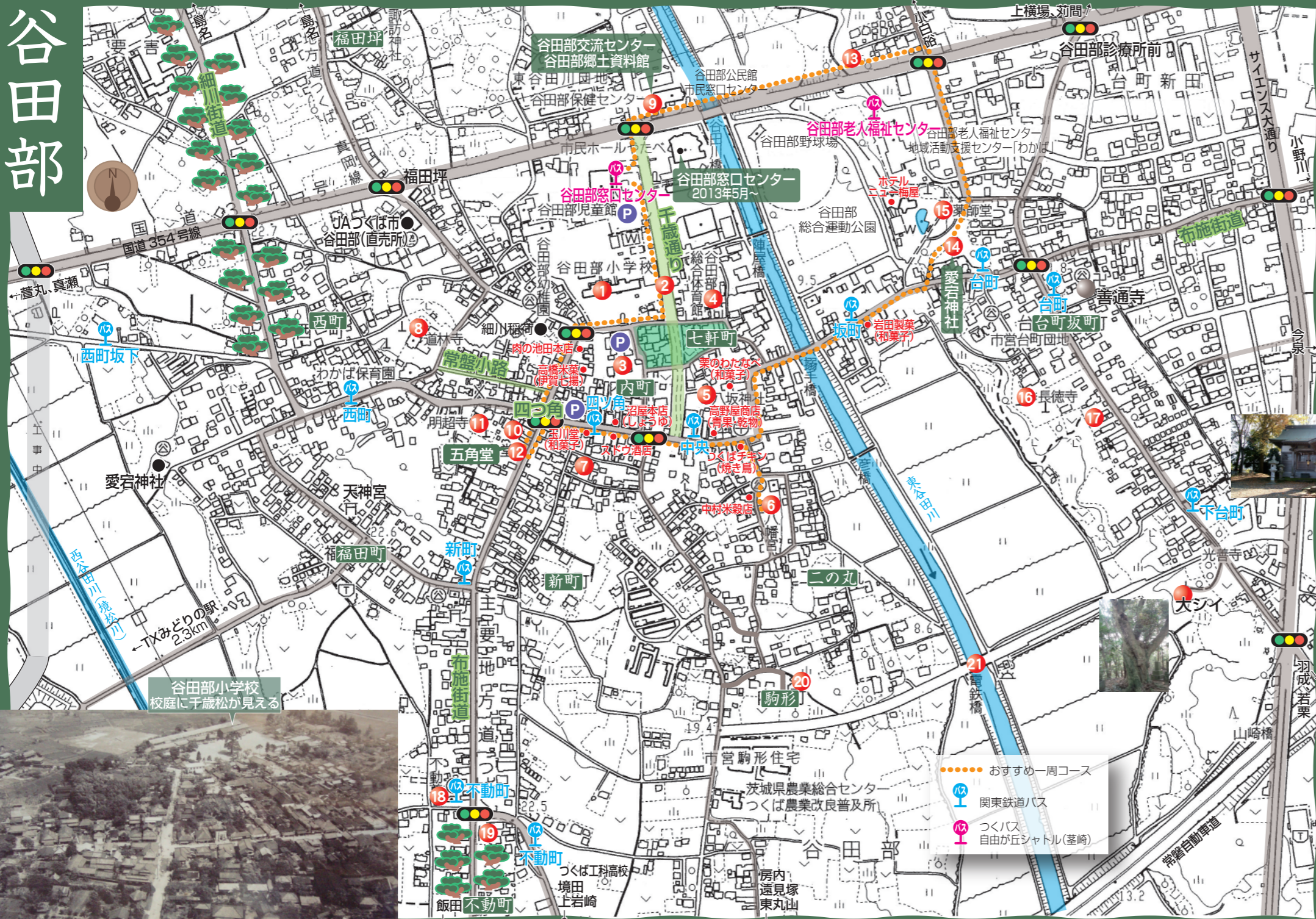


つくば市都市計画図を基に作成

# 谷田部



## 内町

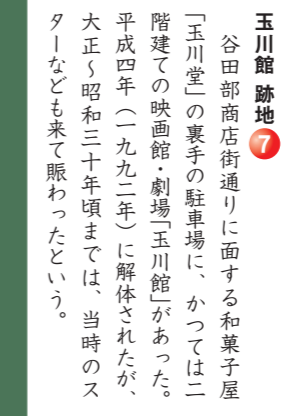
初代藩主、細川興元(おきもと)は、関が原の役や大坂夏の陣の戦功として、下野国茂木と常陸国筑波郡に一万六千石の領地を賜った。元和五年(一六一九年)、二代藩主興昌(おきまさ)が、茂木から谷田部に移り、現在の谷田部小学校の地に、細川藩の陣屋を置いた。陣屋の南側には、武家屋敷などが並び、城下町が整備された。陣屋の北側と東側には堀めぐり、その先は湿田であった。小字名「七軒町」は、武家屋敷が七軒あったことに由来するという。

**谷田部小学校** ①  
明治十一年(一八七八年)の「郡区町村編成法」により、郡役所は所属する町村を総括し、郡は県に総括されることになった。筑波郡役所は、旧細川藩陣屋に置かれ、谷田部は長く行政の中心となる。郡役所が大正十五年に廃止された後は、谷田部小学校として今に至る。現在、小学校南側に立つ戦没者供養塔の辺りに郡役所の大門があったとされる。



千歳通り(ちとせと通り) ②  
昭和三十年(一九五五年)に谷田部町と周辺四ヶ村が合併して新しい谷田部町が誕生した。谷田部町役場は、小学校の東側、現在の千歳通りにあった。今その跡地には、合併記念の石碑のみ残っている。通りの名前は、小学校の校庭に生えていたが、平成五年(一九九三年)に枯死した「千歳松」に由来する。この大松の幹の輪切りが谷田部郷土資料館 ⑨ に保管されている。

**陣屋の玄関** ③  
陣屋の玄関部分が、現在、公民館倉庫の入口として残されている。かつて茅葺であったものが瓦屋根になっているが、頭貫には細川氏の紋章(九曜紋)があり、貴重である。



お馬ヶ池(おうまがいけ) ④  
陣屋内の藩主住居の庭園にあったとされる池。現在は秦家の庭として一部保存されている。湧水もあったという。

**八坂神社** ⑤  
鳥居には天保三年(一八三二年)・三町氏子中という刻字がある。今も毎年七月には内町・新町・台町の三町で祇園祭が行われる。鳥居横に大クス、境内の大六天神社の後ろには大ケヤキがある。

**八幡神社** ⑥  
境内の石灯籠は天保三年(一八三二年)造立で、星や月の型を抜いた火袋を持つ。鳥居は同年造立、昭和三年(一九二八年)再建の記銘がある。拝殿などに「九曜紋」が刻されている。境内にカヤの大木がある。

**玉川館跡地** ⑦  
谷田部商店街通りに面する和菓子屋「玉川堂」の裏手の駐車場に、かつては二階建ての映画館・劇場「玉川館」があった。平成四年(一九九二年)に解体されたが、大正昭和三十年頃までは、当時のスターなども来て賑わったという。



## 西町

道林寺から鳥名に至る道は、茂木へと続く街道と合流し、細川氏を通ったことから細川街道とも呼ばれた。福田坪の交差点から北へ約八百メートルの地点には外堀とも伝えられる土塁と堀跡「谷田部大堀」が残る。裏面 ②⑥

**道林寺(どうりんじ)** ⑧  
慶長二年(一五九七年)開山とされる浄土宗の寺。細川氏の菩提寺として、位牌や側室・子女の墓碑が残る。第二次世界大戦後、火災で本堂などが焼失したが再建された。墓地内に飯塚伊賀七や広瀬周伯・周度の墓がある。



谷田部に過ぎたるものが三つあり

不動並木に  
広瀬周度  
飯塚伊賀七

蘭学者  
飯塚伊賀七 いづかいがしち  
江戸後期、宝暦十二年(一七六二年)、新町で代々名主を務める旧家に生まれる。数理に明るく発明家であり「からくり伊賀七」と呼ばれる。五角堂 ⑫ の他、天明八年(一七八八年)に自作の測量機により制作した「分間谷田部絵図」は今の地図に匹敵するほど精度が高かった。文政五年(一八二二年)に制作した「伊賀七の時計」は、朝晩、鐘や太鼓を打ち鳴らし、笛を吹いて時を知らせたという。再現されたものが谷田部郷土資料館 ⑨ にある。その他、「茶くみ人形」「酒買い人形」「飛行機」「自転車」「懐中時計」なども作ったという言い伝えがある。

おすすめ一周コース

- 関東鉄道バス
- つくバス
- 自由が丘シャトル(荳崎)

昭和29年の四つ角周辺の航空写真

飯塚家の門を入って右側にある。文政年間以前に作られた珍しい正五角形の建物で、各辺のなす角度を108度にするように設計した飯塚伊賀七の功績を残す貴重なものである。県文化財指定。中には歯車仕掛けの脱穀機があったという。



## 新町

現在の谷田部商店街の西端にあたる十字路は「四つ角」と呼ばれ、江戸時代は大門があり、城下町の南の入口として発展した。

**和泉屋(いずみや)** ⑩  
四つ角にある蕎麦屋。嘉永二年(一八四九年)に建てられた当時は米・炭・茶などを扱う商家であった。昭和二十八年より蕎麦屋を始める。店内に飾られている昭和二十九年(一九五四年)の谷田部の航空写真は、終戦後に谷田部飛行場のパイロットより寄贈されたものである。

**明超寺(みょうちょうじ)** ⑪  
徳治二年(一三〇七年)の開基といわれる浄土真宗の寺で、寛文十一年(一七一一年)に陣屋を整備するため現在地に移された。本尊の阿弥陀如来像は寛永八年(一六三一年)に京都本願寺から賜ったが、仮本堂を経て平成十一年に本堂を再建。

天井には院展作家・日下鉄五郎画伯の「八方睨みの龍」がある。

境内には、谷田部国民学校三年二組の防空壕跡の石碑がある。第二次世界大戦末谷田部飛行場が近いため空襲が多く、周辺の寺院に疎開して授業が行われていた。

**五角堂(ごかくどう)** ⑫  
飯塚家の門を入って右側にある。文政年間以前に作られた珍しい正五角形の建物で、各辺のなす角度を108度にするように設計した飯塚伊賀七の功績を残す貴重なものである。県文化財指定。中には歯車仕掛けの脱穀機があったという。



谷田部郷土資料館 ⑨  
平日十時から十六時まで開館(谷田部交流センターで受付)。入館無料。広瀬周度が描いた飯塚伊賀七の肖像画、再現された伊賀七の和時計なども展示されている。

電話〇二九八三六〇一三九

